

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立弘済中学校
令和 7 年 4 月

1 学校運営の中期目標

【 現状と課題 】

本校の児童・生徒は、児童養護施設・児童心理治療施設に入所する児童・生徒であり、生活背景や環境が複雑で虐待・ネグレクトなどの経験を抱え、幼少時より十分な大人からの愛情や家庭教育を受けてきておらず、基本的な生活習慣が十分に身についていない状況である。よって、ほとんどの児童・生徒は基礎学力に不安があり、自己肯定感や達成感を持てずに日々を過してきた児童・生徒である。

園（施設）で生活する中で衣食住が満たされ、精神的に本来の落ち着きを取り戻した児童・生徒に、基礎学力の定着と基本的な生活習慣や社会性を身につけさせるとともに、豊かな心の育成を核とした生きる力をはぐくむ教育の推進を図ることが、本校の大きな目標であると考える。

そのためには、児童・生徒と教員との信頼関係が最も重要であり、学ぶ楽しさの実践や、綿密な児童・生徒理解によるきめ細かな生活指導など、教員との心の通った学校生活の場を作り出すことが大切であるといえる。

【安心・安全な教育の推進】

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「マナーへの意識」「規範意識」「思いやりの心」「奉仕の心」「感謝の心」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年80%以上にする。
 (1 安全・安心な教育環境の実現 1-1 問題行動への対応)

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。
 (2 豊かな心の育成 2-1 道徳教育の推進)

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、良いところがありますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。
 (2 豊かな心の育成 2-3 人権を尊重する教育の推進)

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。
 (2 豊かな心の育成 2-2 キャリア教育の充実)

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年80%以上にする。
 (4 誰一人取り残さない学力の向上 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進)

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を毎年90%以上にする。
 (5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

○令和4年度～令和7年度の学校独自アンケートにおける「あなたは、食事の大切さに関心を持ち、礼儀正しい食べ方ができていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。
 (5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進)

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

【学びを支える教育環境の充実】

○弘済のぞみ園・みらい学園・保護者・関係機関との連携を、組織（広報・連携推進プロジェクトチーム）により活性化させ、園行事に対する「協力・連携」の項目や、生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の4項目の取り組みにおいて、肯定的な回答をする園職員の割合を80%以上にする。

(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)

2 中期目標の達成に向けた中学校の年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

○「アサーション」「アンガーマネジメント」「ピアサポート」などの技法を取り入れた「つながる力向上プログラム」を実践し、生徒が自ら考え、判断し、それを言葉や行動で表現し、伝えることができるコミュニケーション能力を高める。

(2 豊かな心の育成 2-1 道徳教育の推進)

○「認知機能強化トレーニング（コグトレ）」を継続して実施し、生徒が自分の特性を深く知ると同時に自らの弱点に気づき、それを克服する機会を設ける。そのことにより、高校中退率を前年度より減少させ、卒業後の社会生活への適応がより良くできるようにする。

(2 豊かな心の育成 2-1・3 道徳教育・人権教育の推進)

○年度末の校内調査において、以下の項目について「当てはまる。または、どちらかといえば、当てはまる。」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

- ・「気持ちの良いあいさつができていますか」（マナーへの意識）
- ・「将来の夢や目標をもっていますか」（豊かな心）
- ・「相手の気持ちを考えた言動ができていますか」（思いやりの心）
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」（奉仕の心）
- ・「感謝の気持ちをありがとうの言葉で伝えられていますか」（感謝の心）
- ・「学校生活ガイドにそった学校生活を送っていますか」（道徳心・社会性・規範意識）

(2 豊かな心の育成 2-1・2・3 道徳教育の推進・キャリア教育の充実・人権教育の推進)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上とする。

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント向上させる。

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を10%以上にする。

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。

○年度末の校内調査における「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。

(4 誰一人取り残さない学力の向上 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進)

○年度末の校内調査における「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。

(5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

○年度末の校内調査における「あなたは日頃から、病気（感染症）やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。

(5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進)

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。
[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

○生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に努め、学校が認知したいじめ・不登校などの解決率を95%以上にする。

(6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 6-1 ICTを活用した教育の推進)

○年度末に、学園職員を対象とした学校に関するアンケートを実施し、園行事に対する「協力・連携」の項目や、児童・生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の4項目の取り組みにおいて、肯定的な回答する園職員の割合を80%以上にする。「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの教育（指導）を行っている」の項目で、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。

(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)

3 本年度の自己評価結果の総括（中学校）

大阪市立弘済中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価規準	A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標		
【安全・安心な教育の推進】		達成状況
<p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○「アサーション」「アンガーマネジメント」「ピアサポート」などの技法を取り入れた「つながる力向上プログラム」を実践し、生徒が自ら考え、判断し、それを言葉や行動で表現し、伝えることができるコミュニケーション能力を高める。</p>		
<p>(2 豊かな心の育成 2-1 道徳教育の推進)</p> <p>○年度末の校内調査において、以下の項目について「当てはまる。または、どちらかといえば、当てはまる。」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気持ちの良いあいさつができますか」(マナーへの意識) ・「将来の夢や目標をもっていますか」(豊かな心) ・「相手の気持ちを考えた言動ができますか」(思いやりの心) ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(奉仕の心) ・「感謝の気持ちをありがとうの言葉で伝えられていますか」(感謝の心) ・「学校生活ガイドにそった学校生活を送っていますか」(道徳心・社会性・規範意識) <p>(2 豊かな心の育成 2-1・2・3 道徳教育の推進・キャリア教育の充実・人権教育の推進)</p> <p>○「認知機能強化トレーニング(コグトレ)」を継続して実施し、生徒が自分の特性を深く知ると同時に自らの弱点に気づき、それを克服する機会を設ける。そのことにより、高校中退率を前年度より減少させ、卒業後の社会生活への適応がより良くできるようにする。</p> <p>(2 豊かな心の育成 2-1・3 道徳教育・人権教育の推進)</p> <p>○「ポジティブ行動支援(PBS)」に関する行内研修を複数回実施し、あらゆる活動にPBSを取り入れることによって、自尊感情を高め、積極的に行動できる生徒を育てる。</p> <p>(2 豊かな心の育成 2-1・3 道徳教育・人権教育の推進)</p>		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【2-1 道徳教育の推進】	つながる力向上 PJ	
生徒が自ら考え、判断し、それを言葉や行動で表現し、伝えることができるコミュニケーション能力を高めるため、「つながる力向上プログラム」を計画し実践する。プログラムの実施にあたり、教員の指導力向上をねらいとして研修会を開催し、その後に授業実践を行う。		
指標 生活実態アンケートの「思いやりの心」「感謝の心」に関する項目で、肯定的な回答を80%以上にする。(R6 「思いやりの心」 82.6%、「感謝の心」 87%)		
取組内容②【2-1・2・3 道徳教育の推進・キャリア教育の充実・人権教育の推進】 生活指導部 道徳の授業や日常的な生活指導を通して、あいさつやルールを守る等道徳心や社会性、規範意識の育成を意識して教育活動を進める。		
指標 生活実態アンケートの「マナーへの意識」「奉仕の心」「道徳心・社会性・規範意識」に関する項目で肯定的な回答を80%以上にする。(R6 「マナーへの意識」 87%、「奉仕の心」 73.9%、「道徳心・社会性・規範意識」 95.7%)		
取組内容③【2-1・3 道徳教育・人権教育の推進】	学力向上 PJ	
生徒が自分の特性を知り、克服するための取り組みとして、「認知機能強化トレーニング(コグトレ)」を行う。		
指標 「機能強化トレーニング」に加え「作業トレーニング」「対人スキルトレーニング」を取り入れ、計画的に実施する。		
取組内容④【2-1・3 道徳教育・人権教育の推進】	生活指導部	
生徒が自尊感情を高める取り組みとして、外部講師を招いた研修など導入に向けた研修を計画的に年3回行い、ポジティブ行動支援を各活動に取り入れる。		
指標 ポジティブ行動支援について、独自アンケートに基づき、生徒の行動の変容を成果として年度末に確認を行う。		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立弘済中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価規準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上とする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を10%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。 （4 誰一人取り残さない学力の向上 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。 （5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進）</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは日頃から、病気（感染症）やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。 （5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進）</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】 学力向上 PJ 生徒の学習理解度に応じた指導内容を作成し、基礎学力の向上をめざした「わかる授業」を工夫し、実践する。	
指標 年度末の生活実態アンケートにおいて、「興味と関心」、「学習意欲」、「学習習慣」、「授業理解」等の項目で、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。(R6 82.7%)	
取組内容②【4-1、言語活動・理数教育の充実】 学力向上 PJ 言語活動の充実を柱に、新聞の活用を各教科で取り入れ、たくましく生きていくための幅広い知識の習得に努める。	

指標	各教科や取組で新聞を活用した授業の実践と校内研修で実践事例の交流を行う。	
取組内容③【5－1 体力・運動能力向上のための取組の推進】	保健体育科	
	自ら進んで運動に親しみ、自己の健康・体力に興味と関心が持てるよう、学校の授業や体育的行事を積極的に活用する。	
指標	年度末の生活実態アンケートで、運動・スポーツに対する「意欲」、「興味・関心」、「運動習慣」等の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。 (R6 92.3%)	
取組内容④【5－2 健康教育・食育の推進】	健康教育部	
	感染症を含む病気やケガの予防対策を積極的に実施する。そして、病気やケガの実態調査と分析に基づく適切な指導を行う。また、「保健だより」や保健に関する掲示物等を活用し、病気やケガの防止、基本的な生活習慣に対する意識の向上など、啓発活動等を積極的に実施する。	
指標	年度末の生活実態アンケートの「手洗い」「うがい」「病気やけがの予防」「食育」など基本的な生活習慣の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。 (R6 94.9%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立弘済中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価標準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標	達成状況	
【学びを支える教育環境の充実】		
○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]		
○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。		
○生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に努め、学校が認知したいじめ・不登校などの解決率を95%以上にする。		
(6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進		
6-1 ICTを活用した教育の推進)		
○年度末に、学園職員を対象とした学校に関するアンケートを実施し、園行事に対する「協力・連携」の項目や、児童・生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の4項目の取り組みにおいて、肯定的な回答する園職員の割合を80%以上にする。「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの教育(指導)を行っている」の項目で、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。		
(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【6－1　ＩＣＴを活用した教育の推進】	生活指導部	
「心の天気」や「相談連絡機能」などで生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、生徒理解を深める手段とともに、「いじめ・不登校」などの未然防止・早期発見など迅速な対応に努める。		
指標	「心の天気」を日々確認することにより、気になる生徒に積極的に声掛けをする機会を設ける。	
取組内容②【9－1　教育コミュニティづくりの推進】	学校代表	
小、中学部の代表教員が中心となり、園の行事に積極的に協力する体制づくりに努める。生徒の前日の様子や引継ぎ事項を確認するために、毎朝園の各フロアに出向く。また、問題行動等の指導に関しては、事前・事後を含めて生徒指導主事を中心に、園との連携を密に行う。さらに、「園との連絡会」を定期的に行い、連携がさらにスムーズに行えるよう交流を深める。		
指標	年度末に園職員を対象とした学校教育に関するアンケートを実施し、園行事に対する「協力」、「連携」等の項目で、肯定的な回答の割合を80%以上にする。また「園との連携」の項目で、肯定的回答を80%以上にする。さらに、管理職を含めた「園との連絡会」を少なくとも月1回以上行う。(R6 88.1%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点